



The service club to the YMCA
 THE Y'S MEN'S CLUB OF
TAKARAZUKA

宝塚ワイズメンズクラブ
 〒 662-0977 西宮市神楽町 5-23
 西宮 YMCA 内
 Tel (0797)35-5987

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIS EVERY RIGHT

AFFILIATED WITH THE INTERNATION OF Y'S MEN'S CLUBS CHARTERED MAY 22,1988
 宝塚ワイズメンズクラブ 2016年3月会報 第330

主題・標語

- 国際会長(I P) ウィン・ブーンマパシオン (タイ)
 主題: "Mission with Faith"
 「信念の有るミッション(使命・目的)」
- アジア地域会長(AP) エドワード・ケダブリュー オンク(シンガポール)
 主題: "Through Love Serve"
 「愛を持って奉仕をしよう」
- 西日本区理事(RD) 遠藤 通寛 (大阪泉北)
 主題: 「あなたならできる! きっとできる」
 "You can do it! Yes, you can!"
- 標語: 「-生きる しなやか さわやか-」
 - Live flexibly and refreshingly -
- 六甲部長 進藤 啓介(神戸)
 主題: 「YMCAと共に」
 《人を育み・地域に仕える》
- 宝塚クラブ会長 鯖尻 佳子
 主題: 「楽しい例会で素敵な交流の輪を広げましょう!」

今月のテーマ: JWF (Japan West Y's Fund)
 西日本区基金

御国が来ますように。(マタイ6章10節a)
 [主の祈り③]

2016年3月例会

日時: 2016年3月9日(水)18:30
 場所: 宝塚ホテル ゴールドの間
 会費: 会員 3,100円、会員外 3,500円

ドライバー 石田由美子 水谷恭子
 開会点鐘 鯖尻 佳子会長
 ワイズソング 全員
 聖書朗読 吉田 明
 祈 禱 若林 成幸
 ゲスト・ビジター紹介

会 食

お 話 『アフガン孤児支援』を手伝って

元小林聖心女子学院小学校副校長
 藤松 薫 先生

誕生日のお祝い
 閉会点鐘

鯖尻 佳子会長

2015/16 役員	会長 鯖尻佳子 直前会長 杉谷和代 副会長 福田宏子、杉谷和代 書記 若林成幸 会 計 吉田 明、堀江裕一 会計監査 今田 稔 メネット連絡 今田和子 連絡主事 谷川 尚 六甲部メネット事業主査 福田 素子
事業 委員長	YMCAサービス・ユース 福田 宏子 地域奉仕・環境 多胡 葉子 EMC 長尾 亘 交 流 石田由美子 ファンド 武田寿子 広 報(ブリテン) 長尾 亘 (HP) 長尾 亘
特別事業 委員長	NGO 鯖尻佳子 じゃがいも 福田 肇 バザー 加藤光信 市民クリスマス 若林成幸
お誕生日 おめでとう!	福田 素子(3月2日) 吉田 明(3月4日) 加藤 光信(3月12日)
2 月 実 績	例会出席者数 21名 在籍会員数 21名 出席会員数 15名 出席率 71.42% メイクアップ(内数) 0名 メネット 2名 コメント0名、ゲスト・ビジター4名
	B Fポイント 2月 5,135円 累 計 28,375円 にこにこBOX 2月 3,500円 累 計 41,800円 ファンド(物品販売) 8,000円 累 計 75,350円

2月第1例会報告

うれしいうれしい新しい仲間を与えられる 2016年2月第一例会は、2月10日(水)18:30から宝塚ホテルゴールドの間で、メン15名、メネット2名、ゲスト4名の計21名が出席の中、鯖尻会長の開会点鐘により開催された。全員でのワイズソング斉唱、杉谷メンの聖書朗読、堀江メンの開会祈祷と続きゲスト・ビジターの紹介が会長により行われた。その後多胡メンから3月11日に開催される「揚がれ、希望の凧 2016」のアピールと協力をお願いがあった。このイベントは5回目となるが、宝塚ではワイズがはんしん自立の家や武庫川がっこうと協力しながら行ってきたこともあるのでこの節目の5年目まではきっちり行っていこうと確認がなされた。

通例であれば、この後食事という流れになるのだが、今回はうれしいことに新たに宝塚ワイズメンズクラブメンバーに加わる重松えみりメンの入会式を行った。司式は重松メンを宝塚に導いた長尾メンの司会の下、進藤啓介六甲部長、小野勅紘西日本区EMC事業主任によって盛大に行われ、新たな門出をみんなで祝った。



その後会食、今回はTOF例会と言うこともあり、カレーライスのみという食事であったが、その後のスピーチはお腹ならぬ心を十分に満たす内容となった。今回のスピーチは入会式を行った重松メンによる「Y's men's club に育てられて」、であった。重松メンはコメントでもあったこともあり、以前よりワイズとの関わりがあったが、その大きな転機となったことについてスピーチを行われた。重

松メンの母は大阪なかのしまクラブに在籍されていたこともあり、長尾メンは幼少よりの顔見知り。現在は印刷会社を主な取引先としたコンサルティングを展開される起業家でもあり、伊藤園のキャンペーンなどにも関わり、現在はベトナムの若き才能を開拓し開発チームを立ち上げようと活躍中である。

重松メンの大きな転機となったのは1997年の韓国済州島でのユースコンボケーションの参加。ホストは様々な準備をして迎えてくれたが、単にお客さんとして参加することに納得できず、用意されたプログラムをボイコットし、参加者で話し合い、「Our Program For The Future」を掲げ、もっとワイズで行っている「STEP」や「YEEP」などユースを育てる活動をみんなに知ってもらい参加を広げていきたいとみ



んなで一致団結をした。その結果、1998年3月1日にユースによる「Y3west」を立ち上げ、1999年に十勝で行われるアジアユースコンボケーションに向けての準備を「Y3east」とともにに行った。十勝AYCの準備では、ユースメンバーやリーダーだけでなく現地の青少年やアイヌの方々とも一緒に合宿をしながら思いをひとつにしたことも貴重な経験であった。そんな思いで迎えた十勝AYCだが、初日は記録的猛暑で鉄道が全面ストップし、長尾さんなどワイズの方々に支援をいただきながら、予定したアジアマーケットなど、ユース自らの力による活動ができたことが、その時関わったユースにとっても大きな成長の機会となった。

今回ワイズの入会を決めたのは、その時関わってくれた大人の方に「私たちがやったことを、あなた方が次の世代のユースにやってあげてください」という言葉を忘れず、長尾メンのお誘いの中で、そろそろ支える側になるときになったのかなと感じたのがきっかけ。今の若者は意欲がないのではなく、やりたいけどやらせてもらう場所がない

ことと感じる。ぜひそうした若者に場を与えることができればと、ワイズ入会に際して決意を表明してくれた。

その後岡野泰和直前アジア会長より今年の台湾で行われるIYCへの支援が呼びかけられた。こうして我々の心にも火をつけてくれるスピーチは終了し、その後井上メンによる、宝塚市障害者スポーツ協会設立のアピール、誕生月の方への



お祝い、バレンタインデー間近と言うこともあり、恒例の宝塚花組による男性+重松メンへの義理チョコ進呈があり、寒さに打ち勝つ熱く、暖かい例会は閉会点鐘により終了した。

谷川 尚

2月第2例会報告

2月17日(水)18時30分から宝塚西公民館会議室にて2月第2例会が行われた。出席者は、石田、加藤、多胡、長尾、吉田、堀江、青柳、若林各メン。鯖尻会長は体調不良のため欠席。議事要旨は次の通り。

1. ブリテン3月号の編集

長尾メンの編集方針をもとに寄稿分担、作業日程等が話し合われた。原稿締切2月26日、発行3月1日の予定。

2. 3月第1例会の運営

ゲスト・スピーカーは既報の通り、元小林聖心女子学院副校長 藤松 薫氏。演題・プロフィール

ルは鯖尻会長を通じて入手。

3. 六甲部評議会の出席者確認

六甲部評議会Ⅱ詳細は3月第2例会で協議。3月5日(土)14時~19時30分、ホテル竹園、会費5000円で開催。第1部 評議会、第2部 パネル討論、第3部懇親会。

出席者は、鯖尻、石田、青柳、長尾、若林、多胡、武田、杉谷、福田素子の予定。

4. 宝塚チャリティー・バザー

加藤メンからバザーの開催日程、前年バザーを振り返りつつ、次回の運営等について説明があった。

開催日:5月21日(土)、場所:カルチェヌーボ逆瀬川(前回と同じ)、「明るく・楽しく・元気よく」を目標に、会員・YMCA・リーダーが力を合わせて実施することを確認した。チラシと前売りチケットの印刷を急ぎ、3月第1例会にて配布。その他詳細計画は3月第2例会で協議する。

5. 東日本大震災支援「揚がれ、希望の凧」

3月11日(金)14~16時。はんしん自立の家、武庫川河川敷「むこにゃん広場」にて。13時に集合し準備。

6. 会計報告

吉田メンから諸献金・その他の支出について支出案が示され、これを了承した。

① 西日本区諸献金

Y サユース 42,000 円、CS31,500 円、TOF15,000 円、BF31,500 円、RBM16,800 円、YES4,200 円、東日本復興支援 25,200 円 計 166,200 円

② その他の支出

- ・西日本区後期会費等 159,000 円、入会金等 7,500 円
- ・神戸 Y スピーチコンテスト支援 5,000 円
- ・希望の凧揚げ さざんか福祉会 30,000 円
自立の家協賛金 5,000 円
- ・宝塚市障害者スポーツ協会
賛助会費 3,000 円
- ・神戸 Y・タイワーク支援 25,000 円

7. その他

- ① 西日本区大会 (6/25～26, 松下 IMP ホール) 石田メンがまとめ役。3 月中の登録、早割適用。
- ② 大阪土佐堀クラブ 65 周年記念例会
4月2日(土)11～13時 KKR 大阪にて
10,000 円。堀江、長尾、石田、多胡メンが参加予定。
- ③ 西宮クラブ震災復興支援チャリティーライブ3月19日18時、賀川記念館、2500円
- ④ 東日本震災復興支援チャリティーコンサート4月16日(土)14時神戸聖愛教会、1500円

若林 成幸

《プロフィール》 藤松 薫 (ふじまつかおる)



1967年、聖心女子大学卒業。
 聖心会修道院入会。小林聖心女子学院小学校、静岡県の不二聖心女子学院中学校を経て、1994年から2011年迄小林聖心女子学院小学校副校長として奉職。
 現在、同校非常勤講師

会長報告

2月6日(土)神戸栄光教会で開催された「六甲部YYフォーラム」に多胡メンと一緒に参加してきました。約100人が礼拝堂に会し、開会礼拝後、



地下集会室で坂本孝司氏より「YMCAのブランディングとは」と題する講演が行われました。また4名の若い人達による「私のYMCAストーリー」がパネルを通して語られました。その後、ワークショップの形式により5～6人のグループで「色々な活動の中で感じるYMCAの宝とは？」YMCAの宝を未来に繋げるにはどうしたらよいか？」「10年後のYMCAはどうなっているのか？」話し合われました。一人一人が小さな紙に自分の意見を書き、大きな用紙に貼ることによってみんなでYMCAのストーリーを共有することが出来ました。「わたしの小さな光」はみんなの前で輝かせよう。一人一人が世の光なのであると話されました。今、何が起ころのかわからない不安な時代に生きる私達、今ここでもう一度YMCAが何をなすべきなのか考えることが大事なんだということがよくわかりました。

いつもは同世代かそれより上の世代の方とお話する機会が多いのですが、若い方々との話はまた楽しくYMCAとの関わり方も違うのでこういう機会を大事にしていきたいと思いました。



鯖尻 佳子

近況報告

冬の寒さも本格的にやって来た2月。保育園でも今年最後の行事、音楽会が先日行われました。午前中は0,1,2歳児の乳児クラス、午後は3,4,5歳児の幼児クラスが参加しました。私は1歳児担任として、クラスではうた・リズム遊び・踊りの3つをしました。うたでは「ちいさいかくれんぼ」、リズム遊びでは手作りの楽器タンバリンを使って、踊りは「フルフルフ

ルーツ」をかわいい衣装を着て踊りました。舞台上に上がり保護者が見ている前での演技は子ども達にとっても緊張するものですが、固まってしまう子や泣く子もいる中で、余裕の笑顔で？いつも以上の演技を披露することが出来た子もいました。

私は4月から新しい職場へ異動するため、この保育園での最後の行事となりましたが、夏の運動会では泣いていた子が泣かなくなった姿を見て成長を感じました。私自身も子ども達に負けられないよう成長していかないとはいけなかったと思います。そのような思いもあり、今年度の私の抱負は「新しいことへのチャレンジ」です。

桑田 勝弥

第23回バレンタインコンサート

建国記念日の2月11日、今年で23回目の三田ワイズメンズクラブと三田YMCAの主催するバレンタインコンサートは三田市フラワータウン市民センターで行われた。空いっぱいの青空と温かい日差しの下我々宝塚クラブから6名とポップンリンガーズの大谷武史君親子が参加した。

会場はすでに若い人の長い列！今日の出演者「ちめいど」のファンと聞きびっくりしながら開場後おそるおそる後部席についた。第一部はハーモニカ奏者の足立安弘さん、なんと！農業の傍らの演奏活動で近畿圏はもちろん東京から海外まで行かれると云う。たった10穴しかない手の中に納まるブルースハーブと云うハーモニカを使ってジャズから童謡まで曲の巾も広くその息のテクニックから編み出す音はとてつとてハーモニカと思えず、会場いっぱいの人を引き付けた。その上、サプライズで現れた女性ボーカルが今人気の「紙飛行機」を歌いだし、会場もすっかり和やかな雰囲気になった。

第二部の「ちめいど」は篠山育ちの兄弟デュオ。テーマソング全国オーディションに優勝した

り、教育機関からも注目をあびていて今人気上昇中。さすが兄弟と思わせる素晴らしいハーモニーと人の心をつかんだメッセージが心に沁みてきた。初めて聴く私も人にとって大切な物を慈しみつつ歌っている彼らを見ていると人気の訳が分かった。きっとポップンリンガーズの武史君の心もつかんだと思った。

青柳 美知子

【今月のみ言葉】

主の祈りの冒頭の「御名が崇められますように」という祈願のあとには、「御国が来ますように」という祈りが続いています。「御国」とはもちろん「神の国(天国)」のことですが、神の国の福音を宣べ伝えることが、主イエスの宣教活動の中心的な内容でした。

しかし、「神の国」とはいったいどのような国のことを言っているのでしょうか。当時のユダヤ社会では、ローマ帝国に代わって、かつてのダビデ王国の再来である王国がこの地上に建設されることが切に待望されていましたが、主イエスが言う神の国は、地上や天上の空間的な領域を指すのではなく、むしろ、神が支配される領域を意味しています。その意味でもこの祈りは、この地上に神の支配が実現することを願い求める祈願なのです。

それでは、この神が支配する国はいつになったら訪れるのでしょうか。今日の不穏な世界情勢を思うとき、どうしてもこのような問いが起こってきます。しかし、神の国の到来の時期は、単純にこの世の時間で計れるものではありません。むしろ、それぞれが神の前に悔い改めをなし、神の恵みを心から受け入れることができたときに、神の国は私たちの只中に訪れるのかもしれない。その意味でも、この祈りは、すべての人があなたの前に悔い改め、神の御国を受け入れることができますようにとの祈りでもあり、その点でこの祈りは、この世界の人が神の御名を聖なるものとするようにと願い求める第一祈祷とも密接に関わっているのです。

嶺重 淑

YMCA だより



暖冬といいつつ寒さの追い込みはいつまで続くのやら。2月も終わりになってインフルエンザが流行ったりと子どもたちですが、保育園では子どもが休みになると保護者も大変です。そんな冬からいよいよ旅立ちの3月へ。保育園でも大きな成長をとげ小学校へと巣立つときがやってきました。保育園でできることはすべてしたつもりです。それぞれにより歩みがあるように後は祈りばかりです。

1) 「第8回神戸YMCA・コミュニカ学院日本語スピーチコンテスト」ご案内

神戸YMCAでは、毎年「日本語スピーチコンテスト」をコミュニカ学院と共同開催しております。開催について宝塚ワイズメンズクラブからもご協賛いただき感謝いたします。列席も歓迎です。ぜひ学生の輝きをご覧ください。

名称：第8回 神戸YMCA・コミュニカ学院
日本語スピーチコンテスト

日時：2016年3月2日(水)9:00～12:00

場所：兵庫国際交流会館 多目的ホール
神戸市中央区脇浜町1-2-8

内容：テーマ 自由、但し日本に留学してからの経験や見聞を題材とし、それに基づいて自分なりに考えたり発見したりした内容を含むもの。

問合せ先 神戸YMCA学院専門学校(担当：中道愛子)電話 078-241-7204

2) 未来をつくるピースフォーラム報告

2016年2月22日、スティーブン・リーパーさん(元広島平和文化センター理事長)とアーニー・ガンダーセンさん(原子力発電の技術専門家)をゲストに迎え、核と人類と平和をテーマに、神戸YMCA・コープこうべ・兵庫県ユニセフ協会主催「未来を創るピースフォーラム」を、コープこうべ生活文化センターで開催しました。会場は130名

を超える人々が集まり、平和運動への関心の高さ、また核に対する恐怖の大きさを感じました。2015年にニューヨークで行われた核兵器不拡散条約再検討会に参加したコープこうべの報告で始まり、ガンダーセンさんからは「原子力発電所の老朽化による危険性」が語られ、リーパーさんからは「平和文化を創りあげる大切さ」を教えてくださいました。

私たちが「平和」「原子力」「核」についての正しい知識を学ぶこと、自分の直感を信じて選び行動すること、行動する一人ひとりを敬い愛することの大切さを学びました。

今回のフォーラムを主催した3団体は、これからも地域の人々とともに学び語り合う機会を設け、平和への歩みを続けることを約束しました。

3) 「日本YMCA基本原則に学ぶ」実施報告

日本YMCA基本原則は1976年に制定され、その後様々な協議を経て1995年に改訂されました。特に「アジア太平洋地域の人々への歴史的責任を認識しつつ」という文章が加えられたことが大きなポイントでした。今回、関西学院大学教授で神戸YMCAの国際委員でもある山本俊正さんをお招きし、日本YMCA基本原則を紐解きながら、歴史の中でYMCAがどのように歩んできたのかを聴きました。その中で「加害の責任を記憶する」ということや「個の自律の重要性」の重要性に気づき、また、歴史的責任ということは歴史を学び、誠実に向き合うことから始まるということも改めて考えさせられる機会となりました。世界に広がるYMCAとして、国際交流事業などを通して、幼いころから世界に友人をつくることも平和を創りだす一歩なのだということも大切にし、未来へと歩んでいきたいと思えます。